

美術

中学校 第1学年

OS・ソフト等

- iPad
- ロイロノート

<単元・題材名等>

みて！みて！鑑賞教室

ねらい

伊藤若沖の作品「鳥獣花木図屏風」と「樹花鳥獣図屏風」の鑑賞活動を通して、作者の思いを表した「形」や「色彩」などの違いに気づき、若沖の表現の意図や作品に込めた願いを想像し、作者の思いを感じ取ることができる。

仲間の意見を聞き、自分にはない見方や感じ方を知り、自分の見方や感じ方を広げることができる。

主なICTの活用方法

- ・ 資料（鑑賞作品）の提示
- ・ 協働学習支援ツール（ロイロノート）の共有ノートを活用しての考えづくり
- ・ ミラーリングでのプレゼンテーション

ICTを通じて育成する資質・能力

- ・ 作品に対する作者の意図や表現方法の工夫を「形」や「色彩」などの視点から捉えることができる。
- ・ 作品に対する様々な見方や感じ方に触れ、多様な視点から豊かに美術や美術文化を捉えることができる。

実践の概要

本実践においては、鑑賞題材として江戸時代中期に活躍した伊藤若沖を取り上げる。若沖の作品の鑑賞活動を通して、作者の意図や表現方法の工夫について考えるとともに、鑑賞する喜びや楽しさを味わう実践である。本時は2/2に位置し、「鳥獣花木図屏風」と「樹花鳥獣図屏風」の鑑賞活動を行う。個人の見方や感じ方を保証しつつも、同時に仲間の見方や感じ方に触れることができるようロイロノートの共有ノートを利用する。仲間の見方や感じ方に触れ、自分自身の見方や感じ方の幅を広めたり、深めたりするのに有効であると考えている。また、班の仲間と意見をまとめ学級全体に紹介する際には、大型提示装置に若沖の作品を映し、注目したポイントや伝えたい箇所を効果的に示して伝えていくことができるようにする。

生徒の学びの様子

- ロイロノートの共有ノートを使うことで、リアルタイムで仲間の考えを見ながら、説明を聞くことができる。同じグループの仲間の考えに共感しながら、自分の考えをまとめていく姿があった。
- 共有ノートは、1枚の画面に複数の生徒の考えをまとめることができる。その機能を用いて、生徒は自分たちで気づきや考え方の共通点を見つけ、分類しながら考えをまとめることができた。
- 全体発表では、交流した共有ノートを大型提示装置に映すだけでなく、注目させたい部分を拡大するなど、自分の考えを伝えるために効果的に活用している姿があった。



指導のポイント

- 班の仲間と「どこから分かるか。」「どうしてそう感じたか。」などと、色彩や形など造形的な視点とイメージをつなげて考えたり、気づきを基に作者の思いに迫ったりする場面を設定し、班の中で広げ、深めた見方・考え方をまとめるために、共有ノートを活用できるようにする。